

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

令和7年度第1回委員会 議事録

日時 令和7年(2025年)7月28日（月）

14:00~16:40

会場 鎌倉市商工会議所 301 会議室（zoom併用）

1. 出席者

<会場出席>

委員

金子 雄一郎（社会資本マネジメント）

勝地 弘（道路）

出雲 淳一（道路）

堀江 信之（下水道・河川）

鎌倉市

事務局

都市整備部（下水道河川課） 杉浦次長

都市整備部（都市整備総務課） 高橋次長

都市整備総務課（事務局） 横山係長

永井

木村

施設所管課

都市景観部（みどり公園課） 田中次長

道水路管理課 伊藤課長

道水路調査課 下澤課長

道路課 秋山課長

下水道経営課 岩崎課長

作業センター 小田切所長

浄化センター 森田所長

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニヤリング株式会社

<リモート出席>

鎌倉市 施設所管課職員

道水路管理課

道水路調査課

道路課

下水道経営課

下水道河川課

農水課

作業センター

浄化センター

みどり公園課

環境施設課

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニヤリング株式会社

2. 議事

- 1 PDCA 評価について [資料 1](#)
- 2 将来経費試算について [資料 1](#)
- 3 基本施策について [資料 1](#)
- 4 その他
 - ・次回委員会について [資料 1](#)

3. 内部委員会資料

- ・ 資料 1：令和 7 年度第 1 回委員会説明資料

4. 開会あいさつ等

～開会、資料確認、傍聴者入室について確認～

～傍聴者入室～

～令和 6 年度第 3 回委員会（令和 7 年（2025 年）3 月 26 日）の議事録確認・確定～

5. 審議内容

(1) PDCA 評価について

- ・ 委員長：それでは、議事に入ります。本日は、3 つの議題がございます。1 つ目は、PDCA 評価について、前回の議論等を踏まえた評価結果をご報告いただきます。2 つ目は将来経費試算について、具体的な方針や方法について審議していただきます。3 つ目は基本施策の見直しについて、追加、変更した箇所などを審議していただきます。ではまず、次第の 1 から事務局より説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：一資料 1 p3～26 説明—
- ・ 委員長：ご説明いただきましてありがとうございました。今回の PDCA 評価では、マネジメント計画を策定してから現在までの施策の取組状況を整理いただきました。ご意見やご質問等はございますでしょうか。舗装や橋梁、トンネル、下水道については、法定点検の実施や個別施設計画の策定が進んでいると認識しています。公園と緑地については、個別施設計画は策定していますが、人員不足等により進捗が遅れていると理解しています。一方、道路附属施設や河川、雨水調整池等は、現状把握に留まっているのかと思います。これは人員や予算の関係で、法定点検を実施する施設の対応に人員を割かれてしまう等の事情があるからなのでしょうか。
- ・ 事務局：法定点検や個別施設計画の策定が要件となる国庫補助対象の施設については、計画が策定されていると認識しています。一方で、国庫補助の対象とならない施設や事後保全に位置付けている施設は優先度が下がり、取り組みが進みにくいと考えます。
- ・ 委員長：そのような施設については、個別施設計画を策定する方向とするのでしょうか。他自治体では個別施設計画を策定しているところもあると思います。
- ・ 事務局：予防保全に位置付けられているにもかかわらず個別施設計画が未策定の河川施設や一般道路等については、個別施設計画を新たに策定したり、既存計画の対象を拡大して順次対象に含めたりすることで、予防保全に移行していく方針と考えています。
- ・ 下水道河川課：河川および雨水調整池、下水道分野について、平成 30 年にストックマネジメント計画の策定のために調査を行いましたが、現在は、交付金の関係により予算規模に応じた浚渫などにとどまっています。また、雨水調整池については台帳データの電子化が必要であると考えます。

- ・ 委員長：分かりました。
- ・ 委員：施設によっては、管理状況を数値化できるものがあると思いますが、健全性等の指標による評価は実施していますか。
- ・ 道路課：道路施設について、舗装や橋梁等は健全性を算出しております。それらの指標を用いて、個別施設計画を策定しており、その計画に基づき、修繕等を実行しております。修繕後にそれらの指標が回復しているかは次回の点検にならないとわからぬため、こうした取り組みをもって改善されただろうと考えている状況です。橋梁やトンネル等については、法定点検と計画策定を神奈川県の技術センターに係る発注者支援をいただいておりますが、盛土については、どういった点検をしたのかといった情報が整っていないため、進んでいないという状況です。
- ・ 委員：盛土等の附属施設について、ブロック積以外に法枠工等があるかと思いますが、それらの把握や点検等はこれから実施していく予定ですか。
- ・ 道路課：道路の横の斜面や道路の下法面など、道路管理地として市で管理する部分については、設計をしている段階の施設や、民地内にあるため協議段階の施設等もあり、順次進めている状況でございます。
- ・ 委員長：今後方針等を検討していく予定でしょうか。
- ・ 道路課：斜面地や法面について体系的な対応方針はなく、崩れた箇所について個別に対応をしている状況です。
- ・ 委員長：健全性Ⅲの橋梁については措置が完了しているということでよろしかったでしょうか。
- ・ 道路課：令和6年度に健全性Ⅲの橋梁の措置は完了予定でしたが、新たな点検で健全性Ⅲの橋梁が出てきてしまっているという状況です。
- ・ 委員：まず、一点目として10年後、40年後に安心で快適なインフラサービスを市民に提供するというマネジメント計画の策定目的を共通認識として確認する必要があります。施策の評価も必要ですが、インフラそのものが健全かどうかを最初に評価すべきであると考えます。計画を策定した際の施設の状況と現在の施設の状況を明らかにし、人もお金も足りない中で、手を打たなければどんどん状態が悪化するものについて、今、このような状態にとどめています、ということを市民の皆さんにお伝えできるということが重要だと思います。

次に二点目ですが、マネジメント計画の策定時、将来経費の試算は、施設ごとの耐用年数に基づき施設の更新等に必要な投資額を算出しました。その額をベースとして、予防保全型へ移行した場合に、耐用年数がざっと1.5倍になることで、これだけの投資額に抑制できるという仮想のプランを作りました。そのため、マネジメントの基本は、予防保全型に移行できたかどうかと、それにより削減できた投資額を効果額として確認することです。ただし、その効果額を算出することは非常に難しく、調査費だけで億円とか必要になりうる作業だと思います。このため、単純に計算する then たら、予防保全型管理に移行できた施設はマネジメント計画による試算どおりと仮定し、移行できなかつた施設は通常の耐用年数で更新が必要となると仮定して整理する方法が考えられます。全国的に必要な投資額に対して投資が不足しているが、どれだけ不足していたのかを、まず整理すべきです。

ここまで「カネ」の課題。続けて「ヒト」の観点から考えると、今の自治体には5年、10年の維持管理計画を作る力がなくなってきたことが大きな課題です。施設の状態をよく見て判断し、いろんな工法からどう補修、改築すべきか、新設の何倍も技術力、手間、コストが必要で、大事故になれば大変な支出と職員疲弊となります。鎌倉市では個別の長寿命化計画、点検を含む維持管理計画、改築更新の資本投資計画をどこまで策定できているのかをまず確認する必要があります。予防保全型と位置付けた施設について、計画策定率を100%にしていく必要があり、これをすぐに確認して、未策定の施設についてはいつ計画を作るのかを考えることがまず優先的に確認すべきことだったと思います。

- ・ 委員長：安全・安心なインフラサービスを提供するために必要な費用について、今後試算を実施されるかと思いますので、次回の委員会にて、その結果を確認した上で対策を議論できると良いと思います。また、個別の施策だけでなく、予防保全ができているかという観点で評価すべきだというご意見

をいただきました。

- ・ 事務局：参考資料として、マネジメント計画策定時に設定した管理方法、個別施設計画の有無、定期点検の実施有無を整理しました。施策ごとの PDCA 評価だけでは把握しにくいため整理したものであり、施設ごとの総合的評価については文書での記載も検討します。
- ・ 副委員長：「インフラ別のコスト縮減状況」(p25)において、下水道及び緑地は 100% を超えていますが、施設別施策の評価では、「予算が確保できず計画通りに進められていない」という記載がされており、矛盾が生じているように感じます。このような箇所については、理由を記載の上、何らかの形で、将来経費の試算に反映できると良いと思います。
- ・ 事務局：緑地でマネジメント計画策定時の試算額より実績額が上回っている点は、崩落の復旧費用が影響している可能性があると考えています。詳細な要因については、今後整理して報告します。
- ・ 下水道経営課：下水道について、マネジメント計画策定時は特別会計でしたが、令和元年に公営企業法に基づく企業会計となりました。それに伴い減価償却費や長期前受金といった現金を伴わない支出も会計方式上出でますが、今回の集計においてもこれらを集計してしまっているために、令和元年度からの維持管理費が大きく増加しています。このあたりの評価の方法については整理する必要があると考えています。

(2) 将来経費試算について

- ・ 委員長：それでは続けて事務局より「審議事項 1」の「2 将来経費試算について」まで説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：—資料 1 p27-32 説明—
- ・ 委員長：ありがとうございます。試算方針を本日審議するということですので、ご意見があればお願ひいたします。個別施設計画は策定済みですが、長期の経費試算が無い公園や緑地については現行のマネジメント計画の試算を準用するという方針でしょうか。
- ・ 事務局：道路関連施設は、長期の経費試算を実施していますので反映したいと考えています。その他の施設については、長期の経費試算を実施していないので、現行のマネジメント計画の金額を準用したいと考えています。
- ・ 委員：準用するというのは、現行のマネジメント計画の金額にデフレーターを加味するということでしょうか。
- ・ 事務局：当初策定時と同様に維持管理経費は実績値を用い、直近の実績に時点更新する予定です。補修更新経費は現行マネジメント計画の金額を使用する方針とし、物価上昇の反映については現在検討中です。
- ・ 委員長：近年の急激な物価上昇を前提とすると、過大な試算となる可能性もありますが、今後どうなるかは分からないので、物価上昇を加味する場合としない場合の 2 パターンで試算する方法が良いかもしれません。
- ・ 委員：補修更新経費について、マネジメント計画を策定した時の想定よりも、現時点で遅れている部分があると思いますが、その先送りした部分を、次の期間に取り返す補正が必要かと思います。
- ・ 委員長：個別施設計画で、長期の経費試算を行っている施設はその結果を採用することで良いと思います。マネジメント計画策定時の値を準用する施設については、当時の試算方法を確認する必要があるかと思います。マネジメント計画策定時に個別施設計画はありましたか。
- ・ 事務局：当時、舗装については個別施設計画がありました。
- ・ 委員長：舗装以外は個別施設計画がなかったようですが、実績を用いて試算していたのでしょうか。
- ・ 事務局：基本は実績から試算を行い、舗装は MCI の値を維持するという条件を付けて試算を行ってい

たようです。また、下水道施設など設置年が分かっているものは、耐用年数経過時点に更新費を計上するという試算をしていたようです。

- ・ 委員長：「インフラ別の補修更新に係る将来経費試算結果」(p30)において、河川や雨水調整池に「個別施設計画を策定して更新」と記載されていますが、これはどういうことでしょうか。
- ・ 事務局：現時点で個別施設計画が未策定のため、今回の改訂では実績値を用います。今後個別施設計画を策定後は、その試算結果を反映する予定です。
- ・ 委員長：公園について、「個別施設計画（予防保全型）に基づき設定」と記載されていますが、現行計画よりも少ない金額を使用するということでしょうか。
- ・ 事務局：公園や緑地については、個別施設計画の短期計画額を用いると過小評価となるおそれがあるため、マネジメント計画策定時の金額を使用する方針とします。
- ・ 委員長：過去5年間のデフレーターの平均値はいくつですか。
- ・ 事務局：約3%です。
- ・ 委員：マネジメント計画においては、試算結果と合わせて試算年度価格と明記するか、国庫補助が得られ処理する必要があると思います。
- ・ 委員長：デフレーターの有無でかなり金額が変わると想いますので、物価上昇を加味する場合と加味しない場合の2パターンで試算することが良いと思います。マネジメント計画の期間は2056年までであり、個別施設計画の方が先に更新時期が来ると思いますが、そのあたりはどうしますか。
- ・ 委員：5年間の計画はありますが、今後10年の具体計画はなしということでしょうか。
- ・ 事務局：今後、個別施設計画の改定時に長期試算を実施し、マネジメント計画の改訂時には最新の試算結果を反映する方針です。
- ・ 委員：個別施設計画の長期の経費試算は、予算の影響は受けておらず、あくまで施設状況から試算されているということでよろしいでしょうか。
- ・ 事務局：ご認識のとおりです。

(3) 基本施策について

- ・ 委員長：それでは、続けて事務局より次第3（基本施策について）の説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：一資料1 p33-39 説明—
- ・ 委員長：ありがとうございました。今まで23あった基本施策を9施策にするということです。こちらについて何かございますでしょうか。
- ・ 委員：全体がすっきりしたのは良いと思います。アセットマネジメント世界標準でも、責任体制や必要なリソース確保が求められていますが、今回改定では、組織が必要な時に適時適切に判断できるかが最大の論点でした。職員だけでなく民間も人不足の状況で、予算と体制の確保は最優先事項であり、これを表現して盛り込む必要があると思います。10年後、どのような事業運営を行うかをイメージしながら、外部リソースの確保も念頭に、内部体制と技術力をどこまでどう確保するかを検討すべきです。維持管理には多岐に渡る知識と技術が必要ですので、それを理解した上で、最適な判断ができる体制をどう作るか。力の問題を解決するには、まず適切な管理計画を策定することが重要で、計画策定体制をどう確保するかをマネジメント計画の中で書くことです。また、基本方針の「魅力ある」という表現を削除することについて、時代はどんどん変わっていくもので、インフラは30年、50年後の社会を見通す必要があることから、少なくとも「時代に応じた」等の表現が必要ではないでしょうか。
- ・ 委員長：推進体制について、行政機関においてアセットマネージャー的なポストを設けることは、な

なかなか難しいことかと思いますが、せっかくこのようなマネジメント計画があるので、そのような体制ができると良いと思います。

- ・ 委員：今日議論しているようなことを分野横断的に、市長も含めて議論する場があるとよいと思います。インフラについて全責任を負う、海外のアセットマネージャーのような制度を、日本でもつくっていくことは不可能ではないと思います。全体最適を議論する体制や仕組みを作ることが重要であると思います。
- ・ 委員長：基本方針の「魅力ある」という表現を削除する代わりに、「時代に応じた」でなくても、例えば「ニーズに対応する」といった表現を追加することについて何かございますでしょうか。
- ・ 事務局：基本方針に「ニーズに対応する」というような表現を追加することについて、庁内で議論を行いましたが、ニーズに対応した部分に係る将来経費試算が困難であるため、まずは安全・安心を確保する最低限の計画とする方針としました。
- ・ 委員：マニュアルに「最低限の」という表記があるのでしょうか。
- ・ 事務局：記載はされておりませんが、「魅力ある」という表現があると、プラスアルファの要素が上乗せされているように捉えられてしまう可能性があると考えました。
- ・ 委員：プラスアルファは考えてはいけないということでしょうか。
- ・ 事務局：プラスアルファの部分については、個別施設計画の中に盛り込まれることであると思います。インフラマネジメント計画においては、どの施設のどの範囲までプラスアルファの要素を盛り込むか、また、どのように将来経費試算に反映させるのかが難しいということでそのように判断いたしました。
- ・ 委員：付加機能について扱おうとすると、今の体制のキャパシティを超えてしまうので、結果的に付加機能は扱わないという作業方針は正しいと思います。しかし、マネジメント計画の中で、付加機能を考慮しない、時代変化を考えない、としてしまうのは危険だと感じます。
- ・ 事務局：付加機能や時代変化を否定する意図はありませんが、将来経費にこれらを反映させることは難しく、扱いに悩んでいる状況です。
- ・ 委員：様々な時代変化を試算に反映することは難しく、そもそも将来経費を試算すること自体がものすごく難しいことで、そう計画に記載してもよいと思います。時代変化への対応については、今後対応していく等を文章で記載すれば良いと思います。
長期計画にとって、将来のまちがどういう形になるのか、時代の先を考えていくことは、全職員徹底すべきことだと思います。
- ・ 委員長：例えば、道路であれば車両優先から歩行者優先に変わってきており、車線を減らし歩道を拡幅する等のニーズへの対応は、プラスアルファの整備ではないと思います。
基本施策については、基本的にこの見直し案で進めていただくことになるかと思いますが、PDC A評価結果を踏まえ施設別施策の変更を行う場合は、この基本施策の更新案に基づいて変更するということでおろしいでしょうか。
- ・ 事務局：ご認識のとおりです。施設別施策の修正に伴い、必要に応じて基本施策の一部を調整する場合があります。
- ・ 委員長：その点については、よいと思います。

(4) その他 次回委員会について

- ・ 委員長：それでは、事務局より続けて次第4「その他」次回委員会についての説明をお願いいたします。
- ・ 事務局：—資料1 p40 説明—
- ・ 委員長：ありがとうございます。次回の委員会では、今後の対応を踏まえ、マクロな視点で議論をで

きると良いと思います。また、必要に応じて事前に議論をできたらよいと思います。

- ・ 委員：今後、優先順位付けが大事になってきます。色々な分野でリスク評価をされていると思いますので、それらに基づき、リスクが高い施設について優先的に議論ができるとよいと思います。
- ・ 事務局：ご質問の「優先順位」については、施設自体の優先順位を指すのか、修繕等の作業の優先順位を指すのか、どちらを想定されているかご確認させていただきます。
- ・ 委員長：両方かと思います。それでは、これをもちまして本日の委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上